



防衛研究所

The National Institute for Defense Studies

## 台湾統一地方選挙で敗北した民進党

NIDS コメンタリー

門間 理良 地域研究部中国研究室長

第 90 号 2019 年 1 月 9 日

2018 年 11 月 24 日（土）、台湾で統一地方選挙が実施された。即日開票の結果、もっとも注目されていた合計 22 県市の首長の座は、与党である民主進歩党（以下、民進党）は 13 から 6 に減らすという大敗を喫し、中国国民党（以下、国民党）は 6 から 15 に大躍進を果たした。台北市は当初は余裕で再選と目されていた無所属の現職が僅差で逃げ切るという大接戦だった。この結果は、今後の台湾内政や中台関係、さらには 2020 年 1 月に行われる見込みの総統選挙に多大な影響を与えるものと推定されているが、本稿では県市長選挙結果を概観するとともに、民進党敗北の原因と勝利した国民党の動向について分析する。

### 台湾の統一地方選挙の概要

台湾の選挙は 2 年ごとにやってくる。総統と副総統をペアで選出する総統選挙と一院制の立法院の立法委員（国会議員に相当）を選出する選挙はオリンピックイヤーに実施される（前回は 2016 年 1 月）。その中間年に実施されるのが、本稿で取り上げる統一地方選挙（前回は 2014 年 11 月）である。この選挙は台湾では「九合一選挙」とも称されている。それは 9 種類の地方選挙を同時に実施するためである。すなわち台北市・高雄市など 22 県市の首長選挙（これら県市は正確には行政院直轄市と省轄市に 2 分類される）、22 県市議会議員選挙（同上）、郷鎮市長（計 198 人選出）、郷鎮市民代表（計 2099 人選出）、村長・里長（計 7760 人選出）、直轄市山地原住民区區長（計 6 人選出）、直轄市山地原住民区區民代表（計 50 人選出）の 9 選挙である<sup>1</sup>。台湾の有

権者（20 歳以上の成人）は本籍地に戻り、右 9 選挙から各選挙区に該当する複数の選挙（3 もしくは 5）に投票する仕組みになっている。

### 大敗した民進党 — 主要 6 市の選挙結果 —

台湾の全県市のうち与党の民進党は桃園市・台南市・基隆市・新竹市・嘉義県・屏東県の 6 県市を獲得するに止まり、野党の国民党は新北市・台中市・高雄市・嘉義市・彰化県・雲林県・南投県など 15 県市を獲得する大勝利だった。台北市は無所属の柯文哲市長が接戦の末に続投を決めた。以下では、このような結果となった県市長選挙の中で、情勢及び結果が象徴的だった主要 6 市を取り上げて結果を報告する。

### 【高雄市】「韓流」が吹き荒れ、

### 国民党が 20 年ぶりに市政奪還

高雄市は 1998 年から 5 期 20 年にわたり民進党が市長選に勝利していた。元々民進党が強い地盤との見方が大勢を占めており、今次選挙戦でも自らの勝利を民進党本部も出馬した陳其邁候補自身も確信していたと推測される。結果は国民党の韓国瑜候補が 89 万票あまり（得票率 53.87%）を獲得し、陳候補の 74 万票（得票率 44.8%）に完勝した。高雄市育ちの本省人で同市選出の立法委員や代理市長、閣僚、民進党の幹部も務めたことのある医師出身の陳は、高雄市で戦うには完ぺきに近い経歴の持ち主だった。他方、韓は国民党軍出身の父を持つ外省人で、台北県（現新北市）で県議会議員や同県選出の立法委員を務めるなどした高雄市とは無縁の

落下傘候補だった。それにも関わらず韓が勝利できた理由として、①高雄市を超えた広範囲な選挙活動が国民党支持色の強いメディアで大々的に取り上げられ話題になるとともに、普段は台北市など北部で働く高雄選挙民に強く訴えかけた、②SNS 上で若者世代の支持を広範に集めた、③有力者である高雄市農会理事長の強力な助勢を得ていた、④一般庶民の代表的な立ち位置の確保に成功した韓が、広範な高雄市民に受け入れられたといったことが指摘できる。

### 【台中市】市政満足度が高い現職民進党市長が落選

国民党の盧秀燕候補が 82 万 7996 票（得票率：56.56%）で、民進党籍で現職の林佳龍（61 万 9855 票。得票率は 42.34%）を破った。高雄市・台南市の勝利は堅いと見ていた民進党は、元々台中市を決戦場と見なして必勝を期していた。台中市民の林に対する評価も決して低くはなく、予断は許さないものの不利とまでは言えなかった戦いのはずだった。しかしながら、主戦場が予想外の高雄市に移行したために、民進党中央の台中市選挙戦対策が後手に回った可能性がある。

### 【台南市】勝利が「鉄板」の地で民進党が辛勝

台南市は「誰が出馬しても民進党なら勝つ」という土地柄で、圧倒的に民進党が有利とされてきた。現行政院長の頼清徳は 2010 年の選挙で約 62 万票（得票率 60.41%）を得て当選し、その後 2014 年の選挙では 71 万票（得票率 72.9%）で、次点に約 45 万票差で当選を決めている。しかし、今次選挙で民進党から出馬した黄偉哲は国民党の高思博を下したものの得票数はわずか 36 万 7518 票（得票率 38.01%）という薄氷を踏むがごとき勝利だった。6 大都市の中で最も多い 6 人が市長選に名乗りをあげて票が分散したとはいえ、4 割に満たない得票での勝利は、とても台南における民進党の戦いには見えなかった。

### 【新北市】国民党色を消して勝利した国民党候補

国民党の侯友宜が 116 万 5130 票（得票率：57.14%）を獲得し、87 万 3692 票（得票率：42.85%）だった民進党の蘇貞昌を破って当選した。蘇は 30 万票近くの差をつけられての敗戦だった。同市でも有権者が多い中和区・永和区・新店区で侯候補は蘇候補を圧倒した。これらの区は外省人が多く居住する地域でもあり、国民党を支持する基盤がある地域だ。民進党に最も憂慮されるのは新北市が台湾最多の有権者数（326 万 4128 人）を抱える都市であり、その民意が圧倒的に国民党候補を支持した点にある。ただし、今次選挙を見ると、侯にしても高雄市で当選した韓にしても、国民党色を消す形で選挙戦を展開していた。両陣営ともに国民党の候補であることが不利ではないが有利とも言えない状況と分析し、国民党色を強調しない選挙戦を選択したことが注目される。

### 【桃園市】民進党逆風の中で同党現職が余裕の再選

民進党所属で現職の鄭文燦市長が前回の得票数を 6 万票近く上回る 55 万 2330 票（得票率：53.46%）を獲得し、国民党の陳学聖（40 万 7234 票。得票率：39.41%）を退けた。鄭は、国民党が強く前回では 1 万 5000 票負けていた中壢区でも、今回は陳を 7000 票上回るなど、全行政区で陳の得票を上回る完璧な勝利だった。現職・元職・新人を問わず民進党候補が軒並み苦戦する中で再選を果たしたのみならず、前回よりも票数・得票率を伸ばした点は大いに注目される。鄭は複雑な事柄を簡単な方法で解決するというやり方で、市民に市政府がどのような取り組みに努力しているかを理解してもらうようにしたと述べている<sup>2</sup>。だが、これだけでは鄭の大勝を説明しきれないように思われる。桃園市は客家（歴史的に国民党支持者の割合が高い）が多く居住している他、陸軍司令部も所在しているため元々国民党支持者が多い土地柄であるだけに、国民党支持の有権者を多く引き付ける要素がなくては勝利がおぼつかないからだ。

## 【台北市】3000 票差の接戦で無党派市長が再選

前回の同市長選挙で民進党は独自候補を擁立しなかったため、民進党支持者は柯文哲を応援する形になったが、今次選挙では調整が不調に終わり、民進党は独自に候補を立てた。そのため柯は 58 万 820 票（得票率：41.05%）にとどまり、国民党の丁守中 57 万 7566 票（得票率：40.82%）、民進党の姚文智候補は 24 万 4641 票（得票率：17.29%）だった。選挙結果があまりにも接戦だったことから、敗北した丁陣営から票の再集計を依頼された台北地方裁判所が、12 月 13 日に結果を公布したが、再集計しても柯市長の勝利は揺るがなかった<sup>3</sup>。今後は丁陣営が裁判無効の民事訴訟を起こしていくと見られている。

## 民進党敗北の原因は蔡政権の支持率

今次選挙で民進党が敗北した理由は蔡英文総統の支持率低迷と選挙戦略の失敗にある。

### (1) 蔡英文総統の支持率低迷

蔡政権は発足当初は 69.9%（不支持率 8.8%）という高い支持率を示していたが、政権発足 6 カ月後の 2016 年 11 月には支持率が 41.4%に対して不支持率が 42.6%と逆転した。その後は支持率が不支持率を上回ることはいくつもある一時的な現象にとどまり、2018 年 12 月の支持率は 24.3%に対して不支持率は 60.3%に達している<sup>4</sup>。

このような状況に至った要因の 1 つとして、政権発足当初に「老人、国民党系、男性」を政権の要職に配したために、清新な印象を与えることに失敗したことが挙げられる。例えば林全行政院長（陳水扁政権期に財政部長を務めた経験はあるが、民進党外の人物）、馮世寛国防部長（国民党員。内閣最年長で空軍出身の元上将）や、李大維外交部長（国民党員の外交官。現国家安全会議秘書長）、林碧炤總統府秘書長（国民党員。李登輝政権期に總統府副秘書長を務めた）、張小月行政院大陸委員会主任委員（国民党系外交官。女性。現海峡交流基金会董事長）を配したことは政権に安定感をもたらしたものの、民

進党らしさの感じられない保守的な印象を与える内閣となってしまい、民進党支持者の失望を買った<sup>5</sup>。

第 2 の要因として、蔡政権が進めた公務員・教員・軍人の年金改革に対する反発がある。年金改革は馬英九政権期から必要と認識されていた。と言うのも、このまま手つかずの状態であると公務員の年金制度は 2031 年に、教員のそれは 2030 年に、軍人のそれは 2020 年に破綻すると予測されていたからである。だが、退職軍人や公務員は投票に熱心な有権者でもあるため、痛みを伴う改革を馬政権は踏み切れなかった。蔡政権はこれに正面からメスを入れて、まず軍人年金の改革を実行に移した<sup>6</sup>。この改革によって、破綻の危機にあった軍・公務員・教員の退職金・年金基金は今後 30 年間破綻を免れ、今後 50 年間は改革に伴って 1 兆 4243 億元の節約ができたとされる<sup>7</sup>。だが、やはり反発は小さくなかった。今回の統一地方選挙でも警察退職者 173 人が立候補し、議員 8 人、郷鎮長 6 人、郷鎮市民代表 18 人、村里長 41 人が当選したが<sup>8</sup>、年金改革に不満や危機感を抱いた有権者が多数に上ったことを示唆している。生真面目な性格の蔡は、年金改革を避けて通れないものと捉えたのだろう。

第 3 の要因として、台湾民衆や企業が蔡政権の進める脱原発政策を不安視したことが挙げられる。蔡の總統選挙時の公約の 1 つが脱原発である以上、その実現に向けて動くのは当然のことだが、2017 年 8 月には台湾全土で大停電事故が発生した。これはつまるところ人為的ミスによる火力発電所への天然ガスの供給遮断が原因であり、事故当時原発が停止していたわけではないのだが、改めて原発停止による電力不足への懸念が浮き彫りになった。そのため、今次選挙と同時に実施された住民投票でも、2025 年までにすべての原発を停止するとした電業法（日本の電気事業法に相当）第 95 条第 1 項の条文削除を求める声が多数を占める結果となった。

### (2) 選挙戦略の失敗

今回の選挙で民進党はいくつかの失敗を犯した。



第 1 の失敗は民進党が国民党の対極にある政党だという側面を全面的に押し出し、台湾の政治から事実上国民党を排除しようとしたことに民衆がついていかなかったことが挙げられよう。この政策は「移行期正義」として、原住民族の権利回復や司法改革の提起、さらに前述の年金改革も含まれている。これらの政策は国民党独裁政権時代から軽視されてきた分野に光を当てたり、優遇されてきた外省人の既得権益を奪ったりという性格のものでもあった。また、国民党の不当資産問題を処理する委員会を設置して、国民党の収益の多くが不当資産（土地代、建物の家賃収入等）であると判断した。

上記の政策は国民党の独裁政権に反旗を翻す形で成立した民進党としては当然の政策であったかもしれないが、台湾の有権者はもはやそれへの共感が薄れていた。そのような意識のずれが台湾有権者との間に存在していたにも関わらず、民進党執行部は気が付くことができずに修正しないままに選挙戦に突入した。有権者の意識は「移行期正義」よりも、経済振興や雇用拡大など経済的なものに向いていたのである。今次選挙では少数ながら桃園市の他に新竹市や基隆市で民進党籍の市長が前回よりも得票を伸ばして当選している。それを可能にした理由については今後の詳細な検討を要するものの、地域に根差した効果の見えやすい実利的な政策や住民本位の政策を遂行したということかもしれない。また、民進党の選挙戦略上の第 2 の失敗として、民進党が「エリート政党」化したことが挙げられる。それは高雄市で争った韓と陳を比較すると明確になる。韓は父親が黄埔軍官学校出身で日本軍と戦った外省人であるため、外省人に分類される。また、韓自身も台北県（現新北市）で県議会議員や同県選出の立法委員を務めたり、台北青果市場の総経理を務めたりという高雄市で出馬するには不利な要素しかない「落下傘候補」だった。しかし、韓は自分の容姿や対立候補より高い年齢を笑いのネタとして提供するだけの度量をもった庶民的な人物像を提供した。選挙戦ではしばしば大風呂敷を広げたが、それは失言として糾弾されるに至らずかえって人

気を得た。また、選挙活動に当たっては極力国民党色を消した選挙戦を行った。それらが高雄の民衆の心を掴んでいった。それに対して、陳は高雄育ちで同市選出の立法委員や行政院の閣僚、高雄市代理市長、民進党中央幹部を務めた医師でもある。年齢も 53 歳と比較的若い。本来では高雄市で選挙戦を戦うには完璧な候補者だったはずの陳だが、この選挙では民進党のエリート対一般民衆代表の選挙戦のようになってしまった。韓陣営の選挙戦術の巧みさはあるが、全体的に見ても民進党が過去 8 年間、今回は 2 年半政権についている中で、徐々にエリート化が進み、台湾南部のコアな民進党支持層から遊離していったのかもしれない。それが本来民進党の票田であるべき南部で民進党が大きく票を減らした原因と考えられる。

単純な敗北というだけでなく、上記のような問題が表出した以上、党内では党の基本姿勢に関わる問題が噴出してくることになると思われる。民進党は今後、党主席選挙を通じて若返りを進めようとするグループが主導権を握ろうとするだろうが、従来の年齢が高めの独立志向グループとその支持者も無視できない数であるため、今後は党内で路線に関する綱引きが発生する可能性がある。

### 勝利しても団結できない国民党

今回の国民党は完勝したと言って良い。これは次期総統選挙を有利に進める上で重要なステップである。それは、第 1 に全台湾的に民進党よりも国民党を支持する有権者が多数を占めたことを実証するとともに、1 年 2 か月後に迫った総統選挙へ勢いを繋げられる可能性が高まったからである。第 2 に、国民党籍の首長が占めた県市では、総統選挙において国民党が有利に選挙戦を進められるという理由もある。

このような状況の下、本来であれば国民党を勝利に導いた呉敦義主席の権威が高まり、2020 年の総統選挙には呉が国民党公認の総統候補として出馬するのが自然の流れのはずである。しかし、今次選挙前から指摘されていたことではあるが、実際のと

ころ呉の総統選出馬を促す声は全くと言ってよいほど上がっていない。そのことに呉も不快感を高めているが、如何ともしようがない状況だ<sup>9</sup>。

現在、2016 年総統選挙当時の同党主席である朱立倫（前新北市長）、馬英九前総統、王金平前立法院長らの名前が挙がっている。朱は 12 月 25 日の新北市長退任を前に「目標は当然明確であり、確定している」と発言して、総統選出馬に向けた準備を示

唆している<sup>10</sup>。馬英九は総統選挙再出馬への意志を明らかにしていないが、統一地方選挙での応援活動やシンポジウムの主催、回顧録の発表など活発な活動を行っている<sup>11</sup>。とはいえ馬は既に 2 期を務めているだけに新鮮味がなく、王は 77 歳と高齢であり魅力に欠ける。このままいけば、国民党の総統候補は新北市長を退任したばかりで公職は無役となった朱が選出される可能性が高そうである。

(2018 年 12 月 25 日脱稿)

<sup>1</sup> 立候補者数、定員については中央選挙委員会発表資料に基づく。

<sup>2</sup> 「《星期專訪》鄭文燦：民進黨急務 清理戰場」『自由時報（電子版）』2018 年 12 月 24 日。

<sup>3</sup> 「未翻盤！北市驗票結果出爐 柯文哲贏丁守中 3567 票」『自由時報(電子版)』2018 年 12 月 13 日。

<sup>4</sup> 財団法人台湾民意基金會のアンケート調査結果を参照(2018 年 12 月 25 日閲覧)

<sup>5</sup> 竹内孝之「2016 年の台湾 蔡英文政権の誕生と遅い『移行期正義』」『アジア動向年報』2017 年版。

<sup>6</sup> 「軍人年改通過 蔡英文：艱鉅的任務我們一起

做到了」『自由時報（電子版）』2018 年 6 月 21 日。

<sup>7</sup> 「林萬億：公教年改財務效益 未來 50 年省下 1.4 兆」『自由時報（電子版）』2018 年 6 月 22 日。

<sup>8</sup> 「九合一大選》侯友宜效應？ 74 名退休警察當選」2018 年 11 月 29 日。

<sup>9</sup> 「朱立倫成立競選辦公室 吳敦義沒意見」『聯合新聞網』2018 年 12 月 23 日。

<sup>10</sup> 「卸任即成立 2020 競選總部？朱立倫：目標當然是很明顯」『聯合新聞網』2018 年 12 月 23 日。

<sup>11</sup> 「再戰總統？ 馬：還要再想想」『自由時報（電子版）』2018 年 12 月 24 日。

## プロフィール

profile

### 地域研究部

### 中国研究室

室長 門間 理良

専門分野：中国・台湾の政治・軍事、中台関係、東アジアの国際関係、中国人民解放軍史

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。

NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3260-3011

代 表：03-3268-3111（内線 29171）

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp/>